

## 視覚空間の心理的意味に関する研究

—万国博ホスト・ホステスと我が国学生青年との比較を中心にして—

田 中 国 夫      田 淵      創

**問題：**視覚は単純な外界の複写ではなく見る人の人格と、過去の経験を反映した行動的な意味をもっている。したがって視覚空間もまたユークリッド的な等質な空間ではなくて、上下・左右・前後という空間の方位は、それぞれ固有の心理的意味と価値をもっているといわれている。鳥居直隆(6)は彼の著書「イメージの心理学」で次のように述べている。

「上と下は、単に空間的な上下ではなく、目上とか目下とも言われるように、上の方が高い価値を与えられている。これは語呂合わせではない。上は神様のいる空間である。神に向かって祈る時は必ず上を向く。また天を仰いで嘆息する。決して近づくことの許されない空間である。その意味ではわれわれにはどうにもならない空間である。

これに対して「下」は二つの意味をもっている。すなわち悲しみ、失意の空間であると共にそれを受けとめてくれる母のような、頼りのある安心した空間である。

右と左、つまり脇は、一般に伴侶的な性格をもっているといわれる。友達とは並んであるき手を取り、肩をくむ。助け合う伴侶は両脇にいるものである。しかし右と左にも僅かながら違いがある。日本人でも年輩の人は縦書きになれている。しかし若い人は横書きになれている。この習慣の違いが、視覚機能の違いとなっている。すなわち、瞬間的にもものを見る時は、年輩の人は右から左へ、若い人は左から右へと見る傾向がある。

前つまり、正面は、明るく見通しのきく、安心できる空間である。と同時に、いくたの困難が待ちうける現実の空間である。また現実的であると同時に公式の空間でもある。

後は前とは反対に暗く、何があるのかわから

ない不安な罪悪的な空間である。狐や狸が人間をだます時は、必ず後ろにいるそうである。後はいわば悪魔の空間である。ゝ

こうした指摘にみられるように、われわれの普段の生活・言葉の中には、いろいろな空間の意味を見出すことができる。上を権威あるものと感じるが故に、上層階級といった呼びかたや、天皇や将軍のことを昔、上様と呼んだりした。

一方、その反対に下層階級といった呼び方や、下向き、下色といったように、次第に衰えることを示すことばとして下が用いられる。さらに下は下心、下思い、下苦しいといったように、自分の心の中を示すことばにも用いられる。

前と後は、前進、後退、前向きの姿勢、後向きの姿勢といった言葉が示すように、前は積極性にあらわすが、後は積極性に欠けた弱さをみせる。又、後めたいや後暗いなど、つつみかくしているさまを示すことばにも用いられる。

右と左においても、左右ということばが、そばかたわらを示し、また助けを示しているし、座右の銘といったものも、右というものが親密な関係であるということをよく表わしていると思われる。

さらにもう少し空間について考えてみたい。もし、こみあった場所でもないところで、他人が自分の真横にやってきたらどうだろう。無関心ではいられない。自分に用事があると思うか、そうでなければ、あつかましいと感じる。つまり、空間そのものが自己の延長として意味を持っているように思われる。エドワード・ホール(2)は、彼の著書「かくれた次元」の中で、このような、他人と自分との間に保っている空間の意味について興味深くのべている。彼はこの空間を四つの距離帯、すなわち、密接的、個体的、社会的、公衆的な距離帯に分類している。その一つ、密接距離の遠方

相というのは、彼によると6—18インチなのであるが、体は触れあうことはないが他人の身体と密接に関係していると感じる距離であり、公けに用いられる距離ではあり得ない。ところが混んだ地下鉄やバスの中では、いやおうなしに普通なら親密な空間関係である密接距離をとらざるを得ない。ここで乗客のとり普通の手段、すなわち真の親密さを取除く防禦手段は、できるだけ動かないことであり、目はあらぬ方を見ることだという。われわれはそのような空間を無意識にも感じとっていると言える。

人間関係においても、空間の意味は距離だけではなく、位置によっても異なってくる。同じく「かくれた次元」でホールは、ハンフリー・オズモンドとロバート・サマーの行なった次のような研究を取り上げている。36×72インチのテーブルに六人座わらせて、互いの間の会話の数が数えられた。その結果、角越しの会話は横どうしの会話の二倍、又、横どうしの会話は向いあわせの会話の三倍であった。すなわち、これは、正面向いあった位置にいる人よりも、横、または、ななめ横の位置にいる人の方が親密感を感じるということを示している。このことは、前述した、前は公式の空間であり、横は伴侶的な空間であるということとも密接に関係しているように思われる。また改まった面接のような場を思い起こしてもよく分る。さらに、この面接の場において、面接者が自分のすぐ前にいる場合と、遠く隔っている場合では、緊張感において異なってくることもよく経験されることである。まして面接者が自分より一段と高いところにいる場合は一層緊張すると思われる。このような高さにおける位置について、ホールは、社会距離において人を見下すと威圧があるとのべている。自分より高い位置にある人間に対して、われわれは権威を感じるものである。その場合、対象は人間に限らない。建物が上にある場合、例えば室生寺の五重の塔のように高い階段の上に建てられている場合、下からそれをながめると、いかに小さいものであろうと堂々とした権威あるものに感じる。礼拝堂にかかげられた十字架やマリア像も、それが高い位置にあればある程、神聖な、近づきたいものと感じ、丸天井もその効果を増している。

空間の心理的意味についてのべてきたが、このように人間をとり囲んでいる空間、それは、その人にとって虚空にすぎないとは考えられないのである。

このような空間の心理的意味の交差文化的研究に適用できないかというのがわれわれの基本的な命題である。

周知の通り、態度測定の研究において、従来行なわれてきた尺度による態度測定法（例えば、サーストーン(Thurstone)尺度やリッカート(Likert)尺度やガットマン(Guttman)の尺度解析法(scalogram analysis)などetc.)とは異なった態度測定法の研究が進められている。例えば、デニス(W. Dennis) (1)の“*What is it for?*”テストやウィンドル(C. Windle)ら(7)の“自由連想法”(free verbal associations)などがあげられる。“*What is it for?*”テストは日常生活において非常に基本的な対象(例えば太陽、海、父親、友人とか)への態度を“それが何のためにあるか、”という質問の反応によって測定しようとするものである。“自由連想法”は刺激語に対する連想によって態度を測定しようとするものであり、いずれも、尺度によらない態度測定法として注目されている。

われわれの空間の心理的意味に関する研究も、尺度によらぬ態度測定法、即ち、「三次元空間イメージ法」として将来、用いることが可能か否かの検証を旨ざしているのである。SD法等によって三次元空間の意味をとらえ、この上一下、左一右、前一後という三次元上に表わされた反応によって、特に、態度の交差文化的アプローチが可能になれば、というのがわれわれの希望的な仮説である。特定の対象への態度というものを三次元というフィルターに通せば、文化差が明瞭にとらえられるのではないかというのがわれわれの予想だからである。本研究ではそのパイロット・スタディとして、万国博ホスト・ホステスと日本の学生青年を被験者とし、価値態度の異なる外国人と日本人によって、視空間の心理的意味づけもおのづから異なることを、抽象語等の三次元上の位置づけや、SD法によって交差文化的に明らかにしようとするものである。ただ、付随して他の調査(日本や日本人へのイメージ調査、value orientati-

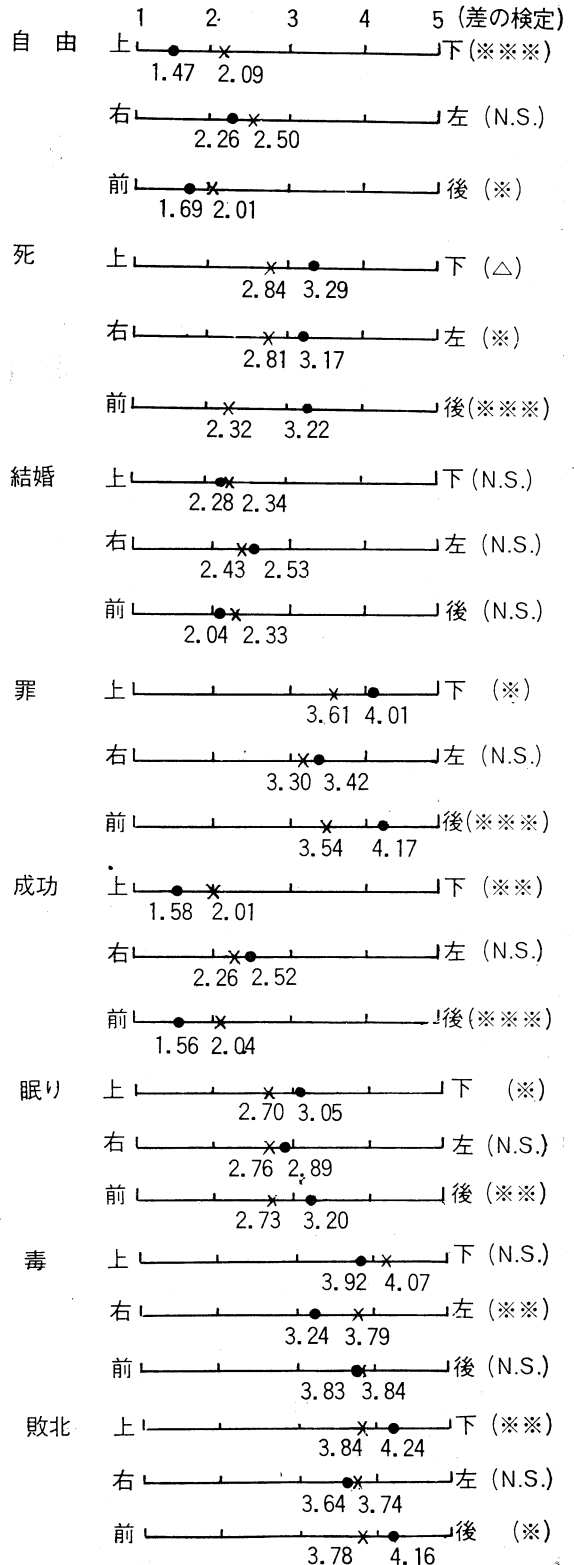
on 調査等) (5) も行なった関係上、各次元の一方  
向(前・上・右) だけしか設問していない不備が  
あることをおことわりしておかねばならない。

方法：被験者は関西学院大学の学生100名と万  
国博のホスト・ホステス86名(フランス7名, ド  
イツ4名, チェコ3名, イギリス3名, ギリシャ  
3名, オランダ3名, ベルギー3名, スイス2名  
イタリー1名, ポルトガル1名のヨーロッパ30名  
; インドネシア4名, インド3名, フィリピン3  
名, シンガポール3名, ラオス2名, 台湾2名,  
タイ2名, パキスタン2名, ネパール1名のアジ  
ア22名; カナダ16名, アメリカ4名の北アメリカ  
20名; エジプト1名, アルジェリア1名, ザンビ  
ア1名, シエラレオネ2名のアフリカ5名, オー  
ストリア5名, ブラジル4名の南アメリカ4名  
—計27ヶ国86名) である。

まず、最初に8つの概念(自由・死・結婚・罪  
・成功・眠り・毒・敗北)を三次元(上一下, 右  
一左, 前—後)の感覚で位置づけを行なわせた。  
評定は5段階で、例えば、からり前(far ahead)  
やや前(rather ahead), 自分のレベル(equiva-  
lent level of yourself), やや後(rather behind)  
かなり後(far behind)となっている。次に前・  
右・上に対するイメージをオズグット(Osgood)  
の研究(3)からgood—bad, beautiful—ugly等18対  
の形容詞を選び出し、5段階評定させた。なお、  
外国人への質問紙は英文と仏文の2種類が用いら  
れ、面接法を中心に、一部、留置法で45年8月に  
万国博各パビリオンで行なった。日本人への調査  
は45年9月に行なった。

結果と考察：8つの概念の3次元上の位置づけ  
の結果は次のようになった。(・印は日本人, ×  
印は外国人, 差の検定はt検定で行ない, ※は5  
%, ※※は1%, ※※※は0.1%で有意差がある  
ものであり, △は10%で傾向がみられるもの, n.  
S. は有意差なしである。以下同様である。)

第1表 8概念の3次元上の位置づけ

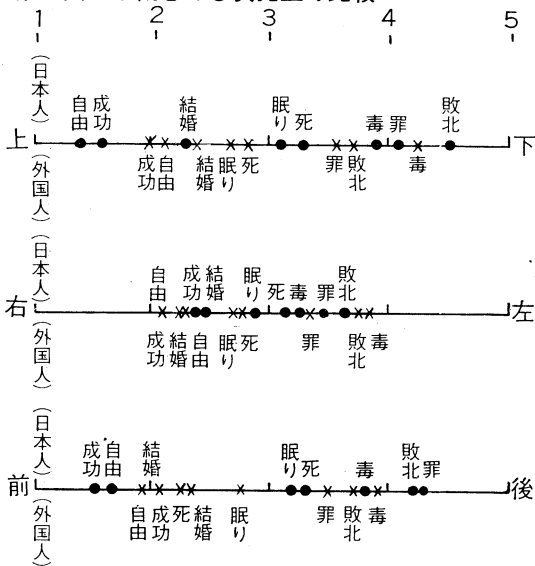


このように、自由とか成功とかは、かなり上・前の方に位置づけされ、罪とか毒とか敗北とかはかなり下で後の方に位置づけされた。左右の位置については上下、前後などの差はみられなかったが、自由とか結婚はやや右の方に、毒とか敗北はやや左の方に位置づけされていた。一般的にみて輝やかしい、明るいものが上、前に位置づけされ、陰湿な、暗いものが下、後に位置づけされていると思われる。左右は脇という一語で表わされるように、はっきりとした区別が付きにくいのかも知れないが、傾向として、右の方にやや明るい、希望的なものが位置づけされている。

日本人と外国人を比較すると、日本人は外国人よりも自由と成功について、上で前の方に位置づけており、罪・敗北を逆に下・後の方に位置づけている。つまりこの4つの概念については極端な位置づけを行なっている。また、外国人が死を非常に前に位置づけているのを始め、日本人とは対象的な位置づけを行なっている。左右についてはこの死についてと、もう一つ毒について、外国人が左よりに位置づけているのを除いて有意差はみられなかったし、結婚についてのみ三次元とも有意な差はみられなかった。

この8つの概念を比較するために、順番にならべてみると第1図のようになる。

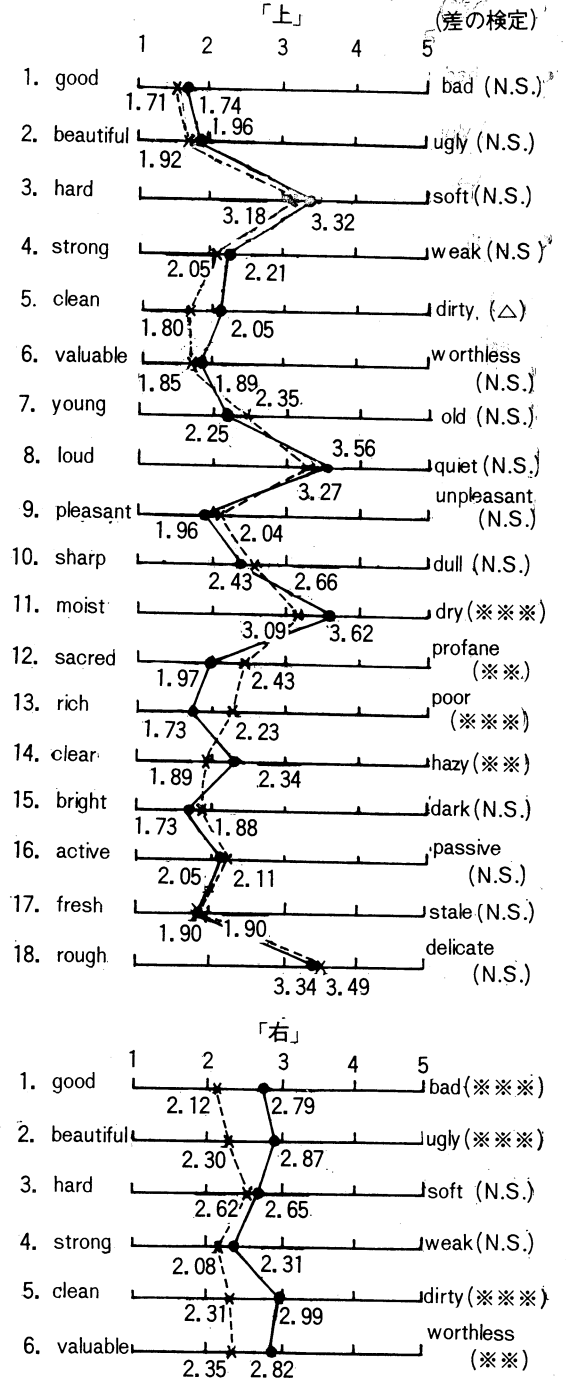
第1図 8概念の3次元上の比較

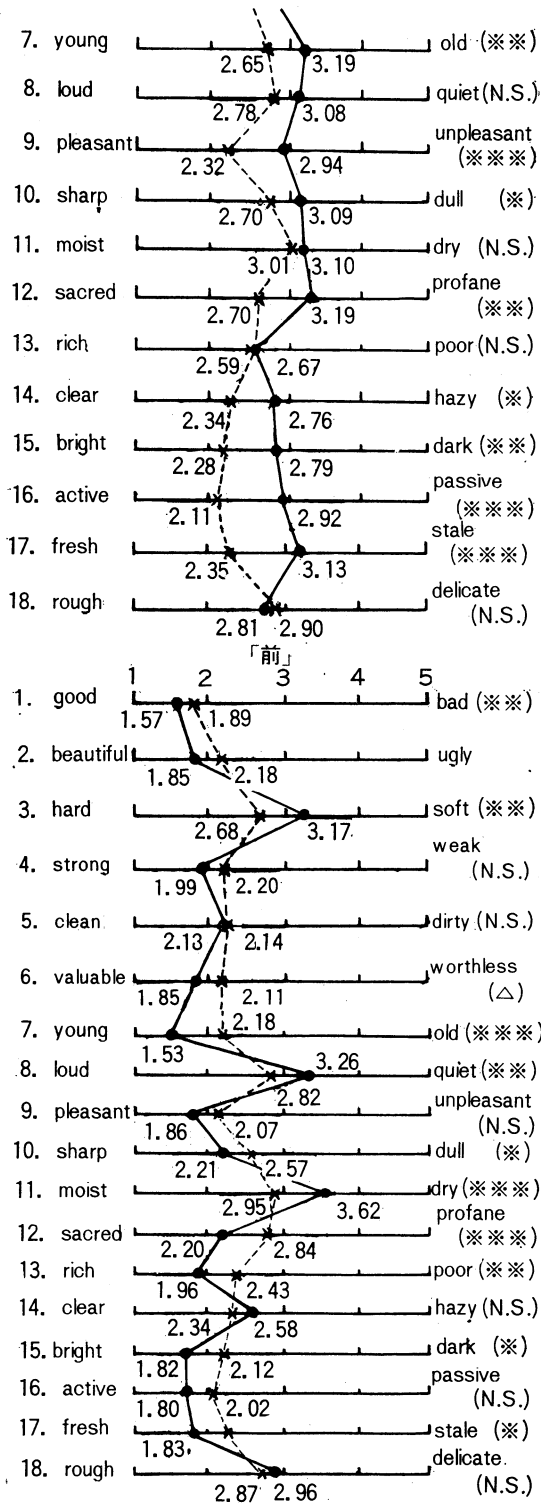


次にSD法による各方位のイメージの結果を第

2表にして示すと次のようになる。

第2表 各方位のイメージ





このように、上についてはかなり良く、美しく

貴重で輝やかしく、新鮮であると評価されているのを始め、活発で、清潔で、明確であるという肯定的なイメージが強くもたれている。前についても上と同様な傾向がみうけられる。すなわち、かなり良く、貴重で輝やかしく、新鮮であり、さらに象かで、活発で若いといったイメージがもたれている。右についてはやや肯定的な評価がほとんどの項目になされているものの、上・前のようなはっきりとしたイメージは表わされていない。

日本人と外国人を比較してみると、上についてはそう大差はみられないが、日本人の方が神聖な、豊かなといったイメージが強いのにに対し、外国人は清潔、明確なといったイメージをより強くもっている。また日本人が上をかわいたイメージでとらえているのが目立った。前については日本人は外国人よりもよい、若い、神聖な、豊かな、新鮮な、輝やかしいなど肯定的なイメージを強くもっていると同時に、やわらかい、静かな、かわいたイメージをもっている。特に前を非常に若いと位置づけているのが注目される。右については18. rough — delicate の項目をのぞいて、すべての項目について外国人の方が日本人よりも肯定的なイメージをもっており、そのうち12項目まで有意の差がみられるというはっきりした差が表われている。特に良い、美しい、清潔な、快い、活発な、新鮮なといったイメージは大きな差が表われているが、これは日本人の右に対するイメージが少し悪いというところに起因しているように思われる

SD法による結果をバリマックス法によって因子分析し、各次元がどのような形容詞対でよく評価されているかの分析を行なった。その結果について示すと第3表のようになる。

この結果、上については、第I因子には、日本人、外国人とも5. 清潔な—不潔な、9. 快い—不快なを始1. 良い—悪いなどの評価的な形容詞対が高い負荷量をしめし、われわれはこれを清明さとにのりの因子と名づけた。同様に、右、前についてもやはり、日本人、外国人とも5. 清潔な—不潔な、9. 快い—不快な1. 良い—悪いの形容詞対に加え、右においては17. 新鮮な—くさったという対も高い負荷量をしめし、これらについても清明さとにのりの因子と命名した。日本人、外国人を問わず、三次元の空間イメージの主軸を形成するの

第3表 各方位のイメージの因子分析

	次 元	上		右		前	
	因 子 形 容 詞 対	第1因子	第2因子	第1因子	第2因子	第1因子	第2因子
日 本 人	1. good—bad	0.610	0.277	0.867	0.009	0.886	-0.028
	2. beautiful—ugly	0.563	0.186	0.895	0.035	0.547	-0.068
	3. hard—soft	-0.341	0.142	-0.359	0.163	-0.008	0.142
	4. strong—weak	0.028	0.325	-0.031	0.113	0.397	0.216
	5. clean—dirty	0.857	0.024	0.738	0.039	0.507	-0.334
	6. valuable—worthless	0.724	0.118	0.620	0.100	0.767	-0.092
	7. young—old	0.752	0.054	0.632	0.355	0.880	0.077
	8. loud—quiet	-0.393	0.043	-0.405	0.211	0.093	0.946
	9. pleasant—unpleasant	0.896	0.032	0.895	0.045	0.460	-0.089
	10. sharp—dull	0.212	0.328	0.337	0.625	0.353	0.084
	11. moist—dry	-0.230	-0.132	-0.295	-0.297	-0.089	0.010
	12. sacred—profane	0.458	0.124	0.576	0.264	0.270	-0.372
	13. rich—poor	0.278	0.144	0.493	0.074	0.397	-0.223
	14. clear—hazy	0.233	0.959	0.252	0.478	0.273	0.070
	15. bright—dark	0.365	0.427	0.587	0.434	0.755	0.040
	16. active—passive	0.311	0.616	0.198	0.967	0.614	0.082
	17. fresh—stale	0.703	0.255	0.693	0.305	0.538	-0.021
	18. rough—delicate	-0.195	0.025	-0.217	0.229	0.025	0.781
外 国 人	1. good—bad	0.627	0.038	0.857	0.037	0.984	0.020
	2. beautiful—ugly	0.854	0.103	0.501	-0.035	0.534	-0.006
	3. hard—soft	-0.172	0.045	-0.058	0.453	0.034	-0.145
	4. strong—weak	0.198	0.528	0.303	0.243	0.343	0.177
	5. clean—dirty	0.829	0.004	0.916	0.073	0.640	0.005
	6. valuable—worthless	0.284	0.954	0.369	0.005	0.384	0.407
	7. young—old	0.243	0.341	0.365	0.113	0.141	-0.088
	8. loud—quiet	-0.157	0.215	-0.061	0.524	-0.134	0.177
	9. pleasant—unpleasant	0.862	0.015	0.733	-0.189	0.561	0.174
	10. sharp—dull	0.126	0.273	0.254	0.542	0.028	0.400
	11. moist—dry	0.297	-0.259	0.150	0.079	-0.085	0.443
	12. sacred—profane	0.276	-0.005	0.264	0.065	-0.061	0.519
	13. rich—poor	0.101	0.381	0.173	0.121	0.266	0.952
	14. clear—hazy	0.583	0.177	0.838	-0.052	0.305	0.102
	15. bright—dark	0.307	0.312	0.507	-0.002	0.391	0.220

16. active—passive	0.119	0.309	0.553	0.093	0.251	0.489
17. fresh—stale	0.358	0.005	0.768	0.033	0.285	0.600
18. rough—delicate	-0.210	0.055	-0.149	0.977	-0.230	0.240

はこの清明さとにのり因子であるように思われる。これに対して、第Ⅱ因子となると日本人と外国人は上と右と前では少しずつの違いをみせている。まず上については、日本人の場合は 14. 明確な—ぼんやりした、16. 活発な—不活発なといった形容詞対が大きな負荷量を示し、われわれはこれを明晰さとあいまいさの因子と名づけた。(カッコ内以下同様) 外国人の場合は6. 貴重な—つまらない、4. 強い—弱いのが抽出された(貴重さとつまらなさの因子)。前については、日本人は 8. やかましい—静かな、18. 荒っぽい—デリケートなが高い負荷量をしめし(粗暴さと繊細さの因子)、外国人には 13. 豊かな—貧しい、17. 新鮮な—くさった(豊かさと貧しさの因子)が抽出された。最後に右については、日本人では 16. 活発な—不活発な、10. 鋭い—鈍いという活動性の形容詞対(活発さと不活発さの因子)が、外国人は 18. 荒っぽい—デリケートな、8. やかましい—静かなという、日本人の前についての形容詞対が高い負荷量を示した(粗暴さと繊細さの因子)。これらをまとめておくと第4表のようになる。

おわりに…以上、結果と考察をのべてきたが、視空間の心理的意味づけが日本人と外国人によって異なっていることが明らかに出来たと思う。このように「三次元空間イメージ法」は交差文化的アプローチとしても有効ではないかといういとぐちを見出しえたが、尺度によらぬ態度測定法の可能性について、今後さらに究明を続けたい。尚、

最後になったが、この調査にあたった社会学部四年の阿部まり子さんの努力と、資料の分析にご協力下さった本学計算センターの雄山、藤田両氏に心からなる謝意を表する。

文献:

- DENNIS, W., Use of common objects as indicator of cultural orientation, J. of abn. & soc. Psychol., 1957, 55 21—28.
- ホール, E., かくれた次元, みすず書房, 1970年, p. 154—181
- OSGOOD, C. E., & TANNENBAUM, P. H., The Measurement of Meaning, Urbana, Ill.: Illinois Press, 1957.
- 田中国夫, 田洩創, 視覚空間の心理的意味に関する交差文化的研究, 日本教育心理学会第13回総会発表論文集, 1971年, p. 388—389.
- 田中国夫, 田洩創, 日本・日本人への態度と VALUE-ORIENTATION について, 日本社会心理学会第12回大会発表論文集, 1971年, p. 40—42.
- 鳥居直隆, イメージの心理学, ブルーボックス, 1970年, p. 38—43.
- WINDLE, C., SZALAY, L. B., & LYSNE, A. D., Attitude Measurement by Free Verbal Associations, J. of Soc. Psychol., 1970, 82, 43—55.

第4表 各方位の因子

次元	人	第Ⅰ因子	第Ⅱ因子
上	日本人	清明さとにのり因子	明晰さとあいまいさの因子
	外国人		貴重さとつまらなさの因子
右	日本人		活発さと不活発さの因子
	外国人		粗暴さと繊細さの因子
前	日本人		粗暴さと繊細さの因子
	外国人		豊かさと貧しさの因子